もし、東京で大地震が

今後 30 年の間に、南関東で、マグニチュード７クラスの直下地震が、70%程度直下地震等の被害想定を見直しました。ここでは、東京湾北部を震源とする東京湾

東京湾北部地震（最も被害想定が大きい場合）

〔想定〕　冬の夕方６時、風速毎秒８メートルの風が吹いているときに、マグニチュード 7.3 の地震が発生した場合

人

死者……9,641 人
負傷者……147,611 人
避難者(1 日後)……3,385,489 人

建物

全壊……304,300 棟
●ゆれ・液状化によるもの……116,224 棟
●火災によるもの……201,249 棟

帰宅困難者

ライフライン

停電率……17.6%
ガス供給停止率……26.8%～74.2%
断水率……34.5%
電話不通率……7.6%

帰宅困難者
5,166,126人

エレベーターの閉じ込め台数　最大7,473台

発生したら

社 総

の確率で起こる可能性があると言われています。平成 24 年 4 月、東京都は、首都北部地震と、東京都多摩地域を震源とする多摩直下地震を比べてみましょう。

多摩直下地震（最も被害想定が大きい場合）

〔想定〕　冬の夕方 6 時、風速毎秒 8 メートルの風が吹いているときに、マグニチュード 7.3 の地震が発生した場合

人

死者……4,732 人
負傷者……101,102 人
避難者(1 日後)……2,756,681 人

建物

全壊……139,436 棟
●ゆれ・液状化によるもの……75,668 棟
●火災によるもの……65,770 棟

全壊建物

ライフライン

停電率……8.8%
ガス供給停止率……6.5%～84.6%
断水率……36.9%
電話不通率……2.0%

エレベーターの閉じ込め台数　最大5,130台

学校での備え、家庭での備え

災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ、学校でも、家庭でも、いざというときのために、備えておくことが大切です。

学校での備え

P40を見よう

大地震が発生したら、あわてずに避難することが大切です。そのためには、学校の避難訓練に真剣に参加することが大切です。

また、いざというときに備えて、日ごろから、自分の身の回りを整理整とんし、掃除をしっかりしておくことが、自分と友達の身を守るための第一歩となります。

- **避難路となる廊下や階段に物を置かない。**
- **靴のかかとを踏まない。**
- **机の回りを散らかさない。**
- **ハンカチやティッシュを常にポケットに入れておく。**

◀それぞれの理由を考えてみましょう。

避難訓練の大切さ

東日本大震災を踏まえ、江戸川区立船堀小学校では、大地震発生時の津波の被害を予想し、6年生が1年生の手を引き、校舎の屋上まで逃げるという避難訓練を実施しています。

自分の身はもちろん、下級生の子供たちの命を守るために、6年生は、1年生を気遣いながら、一生懸命走って避難します。

防災トピック

「津波てんでんこ」　～津波のこわさを知るからこその教え

何度も津波に襲われた三陸地方には「津波てんでんこ」という言葉があります。

「てんでんこ」とは、「てんでんばらばらに」という意味。「津波がきたら、一人一人がてんでんばらばらになって、早く高台に逃げろ。」という教えです。津波に苦しめられてきた三陸地方の人々の思いがこめられた言葉です。

東日本大震災が発生した平成23年3月11日、岩手県釜石市では、「津波てんでんこ」の教えを守り、約3千人の小・中学生全員が奇跡的に避難できました。「とにかく早く、自分の判断で、できるだけ高い所へ逃げる」という先人の教えが、みんなの命を救ったのです。

家 特

家庭での備え

P41を見よう

避難のときにすぐに大事なものを持ち出せるよう、非常持ち出し袋を用意しておきましょう。また、頭を保護するものや、割れたガラスなどで足をけがしないよう、スニーカーなどの底の厚い靴も用意しておきましょう。

- □ 飲み水
- □ 食べ物
- □ 救急箱
- □ お金
- □ メモ帳と筆記用具
- □ ティッシュペーパー
- □ タオル
- □ かいちゅう電灯
- □ 電池
- □ ラジオ
- □ スニーカー

いざというときに備え、家族の集合場所を決めておきましょう。

電話が使えないときに備え、家族と連絡をとる方法を決めておきましょう。

このほかに、あれば便利なものは何かな？

……

地震に対する10の備え

❶ 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう
❷ けがの防止対策をしておこう
❸ 家屋や塀の強度を確認しておこう
❹ 消火の備えをしておこう
❺ 火災発生の早期発見と防止対策をしておこう
❻ 非常用品を備えておこう
❼ 家族で話し合っておこう
❽ 地域の危険性を把握しておこう
❾ 防災知識を身につけておこう
❿ 防災行動力を高めておこう

学校での備え、家庭での備え

家庭での備え（台風などによる風水害）

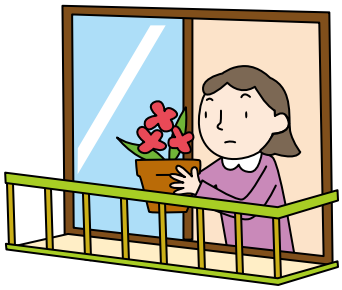
P12.13を見よう

毎年、日本列島を襲ってくる台風。強い風や大雨などによる被害は後を絶ちません。予測できる災害であるからこそ、被害を最小限にするための日頃からの備えが大切です。

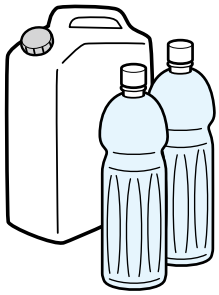
- もしものときに備え、家族で話し合っておきましょう。

- 窓や雨戸など家の戸締りをしっかりしておきましょう。

- 風で飛ばされそうなものは、固定するか屋内に入れておきましょう。



- 断水に備えて飲料水を確保しておきましょう。



いざというときには

台風などの大雨の時は、川や海に近づかないようにしましょう。天気がよくても大雨が止んだ後には川が増水して流れが速くなるので注意

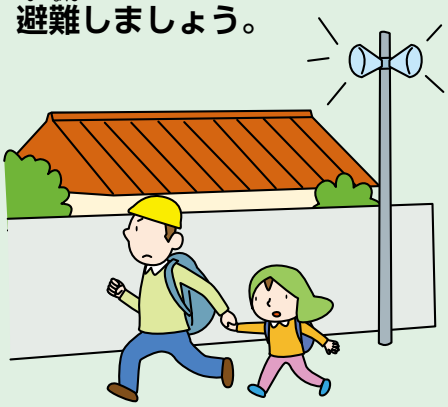
いざというときには

強い風の時は、外出は控えましょう。

(2)　（台風などによる風水害、火山の噴火による災害）　家 特

いざというときには

ラジオやテレビなどの気象情報や警報に注意し、早めに避難しましょう。



いざというときには

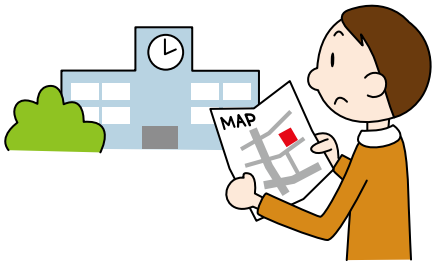
夜間や停電の時は、家族といっしょに行動しましょう。

家庭での備え（火山の噴火による災害）

P10.11を見よう

火山が噴火すると、火砕流や溶岩流などが流れ出てくることがあり、早めの避難が大切です。また、火山ガスが発生し健康に重大な影響をもたらすおそれもありますから、十分な備えをしておきましょう。

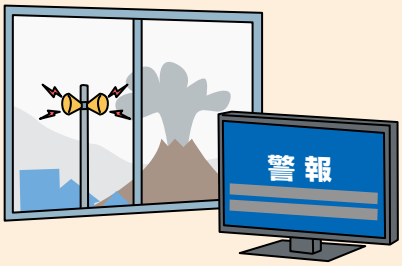
- **避難経路や避難場所を確認しておきましょう。**



- **ヘルメットやゴーグルなど身を守る用具を準備しておきましょう。**

いざというときには

気象庁の噴火警報に注意しましょう。



いざというときには

火山灰や火山ガスなどの火山噴出物が発生したらヘルメットやゴーグルなどをつけましょう。

現在、三宅島では火山活動が活発なため、島民はガスマスクを備えています。